

1. 一般社団法人日本病理学会役員選挙の実施について

令和6/7年度役員(理事・監事)選挙は9月6日立候補を締め切りました。その結果、選出区分2—全国区選出理事において、定員を超えて立候補がありましたので、投票を行います。選挙人である学術評議員におかれましては9月27日(水)12時00分(正午)より10月10日(火)23時59分まで、会員管理システムからマイページにログインし、ご投票をよろしくお願いいたします。

地方区選出理事候補者8名、口腔病理部会長兼全国区選出理事候補者1名、監事候補者2名は、それぞれの立候補者数が定員と同数でしたので、全員が新役員候補者となりましたことをあわせてご報告申し上げます。

なお、今回の選挙の開票は、令和5年10月11日(水)に行う予定です。結果は速やかに本ホームページ等でお知らせいたします。選出された新役員候補者は令和6年5月17日(金)開催の社員総会にて選任予定です。

被選挙人名簿

選出区分2 全国区選出理事: 定員11名

佐々木 毅(ササキ タケシ)

東京大学大学院医学系研究科次世代病病情報連携学講座

古川 徹(フルカワ トオル)

東北大学大学院医学系研究科病態病理学分野

田中 伸哉(タナカ シンヤ)

北海道大学大学院医学研究院腫瘍病理学教室

豊國 伸哉(トヨクニ シンヤ)

名古屋大学大学院医学系研究科病理病態学講座生体反応病理学

小田 義直(オダ ヨシナオ)

九州大学大学院医学研究院形態機能病理学

伊藤 智雄(イトウ トモオ)

神戸大学医学部附属病院病理部

森井 英一(モリイ エイチ)

大阪大学大学院医学系研究科病態病理学・病理診断科

金井 弥栄(カナイ ヤエ)

慶應義塾大学医学部病理学教室

谷田部 恭(ヤタベ ヤスシ)

国立がん研究センター中央病院病理診断科

大橋 健一(オオハシ ケンイチ)

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科人体病理学分野

都築 豊徳(ツヅキ トヨノリ)

愛知医科大学医学部病理診断学講座

牛久 哲男(ウシク テツオ)

東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学分野

以上12名(記載は届出順)

※最大投票可能数: 5

所信表明は以下よりご確認ください。

https://www.pathology.or.jp/news/pdf/policy_speech1a.pdf

新役員候補者名簿

(※定員内につき選挙は行いません)

1. 選出区分1 地方区選出理事: 8名

1 北海道地区

樋田 京子(ヒダ キョウコ)

北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野

血管生物分子病理学教室

2 東北地区

大森 泰文(オオモリ ヤスフミ)

秋田大学大学院医学系研究科分子病態学・腫瘍病態学講座

3 関東地区

矢持 淑子(ヤモチ トシコ)

昭和大学医学部臨床病理診断学講座

3 関東地区

笹島ゆう子(ササジマ ユウコ)

帝京大学医学部病院病理部

4 中部地区

宮崎 龍彦(ミヤザキ タツヒコ)

岐阜大学医学部附属病院 病理部

5 近畿地区

羽賀 博典(ハガ ヒロノリ)

京都大学医学部附属病院病理診断科

6 中国四国地区

増本 純也(マスモト ジュンヤ)

愛媛大学大学院医学系研究科解剖病理学講座

7 九州沖縄地区

久岡 正典(ヒサオカ マサノリ)

産業医科大学医学部第一病理学教室

2. 選出区分3 口腔病理部会長兼全国区選出理事: 1名

清島 保(キヨシマ タモツ)

九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座

口腔病理学研究分野

3. 選挙区分4 監事：2名

九嶋 亮治（クシマ リョウジ）

滋賀医科大学医学部病理学講座人体病理学部門／
附属病院病理部・病理診断科

伊藤 浩史（イトウ ヒロシ）

山口大学大学院医学系研究科分子病理学

（同一区分内の記載は届出順）

所信表明は以下よりご確認ください。

https://www.pathology.or.jp/news/pdf/policy_speech2.pdf

参照 HP:

<https://www.pathology.or.jp/news/whats/post-230913.html>

2. 2023 年英国病理学会参加報告

2023 年 6 月 27 日～29 日にリバプールで開催された英国病理学会学術集会に参加した研究者から報告書が届きました。

1) シニア研究者 都築豊徳委員長（愛知医科大学）

英国病理学会（The Annual meeting of the Pathological Society of Great Britain and Ireland 2023: Liverpool 2023）

派遣報告書

愛知医科大学医学部病理診断学講座
都築豊徳

2023 年 6 月 27 日から 29 日に Liverpool で開催された Pathological Society of Great Britain and Ireland 総会（BDIAP との共同開催）に参加する機会を得ましたので、ここに参加内容を報告させていただきます。Liverpool 到着時のイメージはずいぶんところじまりした街であると感じました。歩いていくと非常に床屋の数が多く、Beatles の名曲 Penny lane の中で床屋が最初に登場するのは偶然ではないと感じました（Penny lane でなくとも、Liverpool では床屋のシーンから歌のイントロが始まりそうです）。学会前日に行われた会長招宴に参加させて頂きました。日本とはかなり異なり、ほとんど平服で臨席しており、かなりリラックスした雰囲気でした。

学会会場は Liverpool 大学構内の校舎を一つ借りた感じで行われました。学会初日に会場に出かけたところ、案内がかなり大まかで迷ってしまいました。Liverpool 大学の図書館の館員の方に場所を聞いたところ、“そんな学会が行われている自体知らない!”と言われ、途方に暮れてしまいました。その後、その館員を中心に複数名の方々に色々調べて頂き、最終的に場所が分かりました（本当にありがたございました!）。会場の入り口が小さく、かなりわかりにくかったです。

英国以外の著名な病理医が複数招聘されており、非常に高度な内容が討議された。いくつかの講演を直接聞いてみたが、それぞれが非常に濃密な内容で大変参考になった。native しかわからない冗談があり、いつもながら困惑してしまっ。代表例が Robert Young 先生の講演冒頭で”私は



学会会場入り口の写真

アイリッシュだし、英国を出てからボストンに 50 年以上住んでいるので、アクセントが分かりにくいかもしれません。”という会場が爆笑となりました。独特の方言を使っただけと思われそうですが、高度な内容についていくことができませんでした。学会自体は非常にコンパクトでポスターの数もそれほど多くなく、日本病理学会秋期特別総会よりも規模が小さい印象がありました。ポスターをすべて見たのですが、かなり高度な発表から症例報告まで様々でした。座長がポスターを周回して、総合討論をすることにプログラム上はなっていましたが、どのタイミングで行っているのかよくわかりませんでした。

会場では junior として慶応大学 紅林泰先生、大阪大学 田原紳一郎先生のお二人が参加、口演をされました。お二人の発表を拝聴しましたが、非常に高度な内容を含んだ発表でした。会場から多数の質問がありましたが、適切な回答をされており、日本病理学会の地位向上に貢献して頂けたと思います。この場を借りて、感謝を申し上げたいと思います。

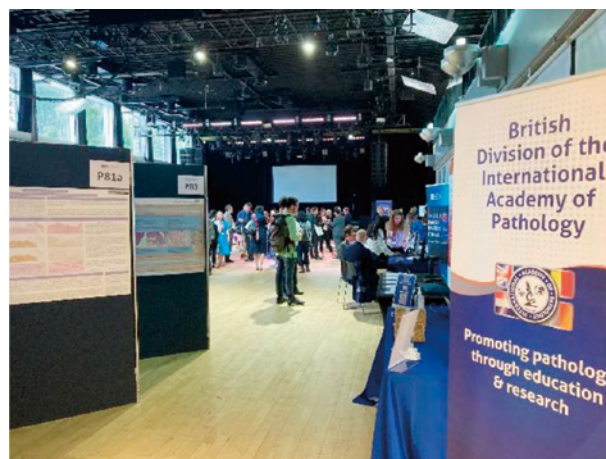
英国病理学会の会長である Arends 教授とは WHO の会議で何度かお会いしており、5 月にも会議で御一緒したところでもあり、非常に打ち解けた会話ができました。非常に気さくな人柄であるところもあり、日英の関係強化には非常に良いと感じました。

日本での宿題講演に相当する講演が 2 演題あり、それぞれが英国の病理学の発展に寄与された方の名前が付けられていました。BDIAP Kristin Henry Lecture として、旧知の Berney 教授が前立腺癌の話をされました。会長招宴の場で彼から発表スライドに“組織標本スライドは 1 枚も使わない”と聞いてはいましたが、その通りで驚きました。

もう一つは Pathological Society Doniach Lecture として、肝臓病理で著名な Burt 教授の講演を拝聴できたのはまさ



会場受付



ポスター風景



左から都築, Arends 会長, 紅林先生, 田原先生



左から都築, Coupland 教授, 紅林先生, 田原先生



Berney 教授の発表

に倂倂でした。

本学会のプログラムで特筆すべきは、若手向きのセッションが多数作られており、若手の発表に対して、指導的立場の病理医が色々と助言を与える内容でした。英国での病理医数は決して多くはないが、非常に高度なレベルが維持されている理由の一端を垣間見た気がしました。日本病

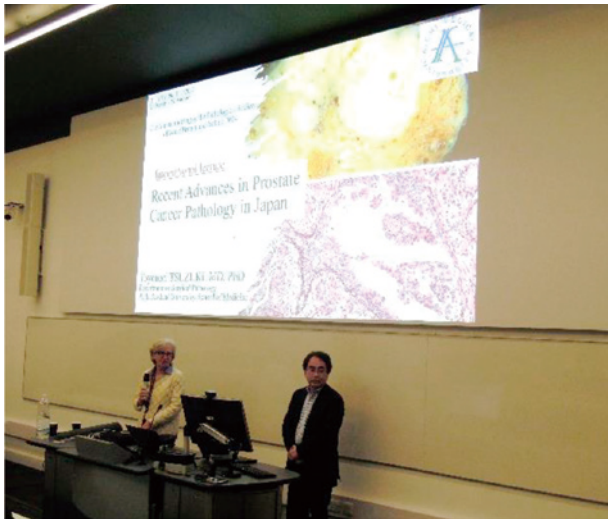
理学会でも検討する価値があるかもしれないと感じました。

最終日は泌尿器病理のセッションが組まれており、コロナウイルス蔓延のために会うことができなかった多数の泌尿器病理医と直接会うことができたのは大変幸運でした。

また、最終日の昼に International session として、“Recent Advances in Prostate Cancer Pathology in Japan”という演題名で発表する機会を頂きました。座長として Liverpool 大学教授で、今回の学会開催に尽力された Coupland 教授に司会をして頂きました。日本における前立腺癌病理の研究内容を披露させて頂くことができ、現在の病理診断の問題点、日本人独特の特徴、最後に人工知能に関する話をさせて頂きました。

今回の学会参加を通じて、日本病理学会のプレゼンスを示すことができたことは幸いでした。また、英国の内情を伺うことができたことも非常に幸運でした。今後も日英交換事業を続けることにより、両国間の結びつきを強める重要性を改めて認識しました。

今回の事業に当たり、尽力して頂いた日本病理学会、九州大学魚返様並びに英国病理学会関係各位に深く感謝申し上げます。



座長の Coupland 教授と都築



都築の発表。前立腺癌の予後因子を解説

2) ジュニア研究者 田原紳一郎先生 (大阪大学) 浦島太郎的非日常体験 (英国病理学会派遣報告書)

大阪大学大学院医学系研究科
病態病理学講座・病理診断科

田原紳一郎

「プール行くんやろ？」

君の行っているスイミングプールではない。リヴァプールである。しかし派遣が決まったときの私のリヴァプールの知識も残念ながら7歳の息子と大差なかった。

1. リヴァプールはどんなところか？

イギリス北西部の港湾都市であり、古くから貿易で栄え、伝統的な建築物が高く評価されている。ただし近年の開発により2021年にリヴァプールはユネスコの世界遺産から抹消された（この辺の問題は私が現在住んでいる京都と似ている）。個人的には歴史的な街並みと新しい建築物の共存が魅力的であった。日本でいえば横浜に似ているように感じた。日本人にとってなじみがあるのは何といてもビートルズである。リヴァプールへはマンチェスター空港から列車で向かった（マンチェスターとリヴァプールは

1830年に世界で初めて営業鉄道路線が開通したところであり、そこを通れるのは鉄道好きとしてちょっと嬉しい）。日本からはマンチェスター空港への直行便がないため香港を経由した。大阪から香港が4時間、香港からマンチェスターが14時間、そしてマンチェスターからリヴァプールが1時間半の長旅であった。

2. Liverpool pathology 2023

日本でいう（春の）病理学会総会に参加させて頂いた。会期は6/27～29の3日間、会場はリヴァプール大学の会館であった。発表に使われた部屋は5つで、最も大きい部屋では300人程度収容出来る。一般演題の時間では複数の部屋で同時進行しており、特別講演の時間は全員が参加出来るように最も大きい部屋でのみ行われる、といった具合である。規模は日本よりもやや小さい印象であったが、話題になっているテーマなどは充分網羅されていたように思う。私と紅林先生は一般演題の中で10分間の発表を行い、同行して下さった都築先生はInternational Lectureとして30分間の講演を行われた。一般演題の質疑応答では他の方はだいたい質問が1～2個であったが、私と紅林先生の場合は気を遣って下さったのか質問が多く、ありがたかった（と同時に緊張した）。

3. 学会のエンタメ的要素

1日目の夜はWelcome Reception、2日目の夜はConference Dinnerがあり（3日目の夜は後述）、昼にはサンドイッチやサラダ、ティータイムにはお菓子がビュッフェ形式で提供されていた。Conference Dinnerは参加費60ポンド（約10,800円）とやや高額であったが（我々は無料で招待されている）、多くの方が参加されており、夜遅くまで盛り上がった。自分の英語のコミュニケーション能力が拙い中、紅林先生と都築先生の存在は大変な難かった。

4. 浦島太郎的非日常体験

私には留学経験はなく、おそらくこれからはないと思われる。仕事や家庭の事情を考えると、海外の学会に参加するというのは不可能ではないが、難しいなあといったところであった。今回このような形でイギリスの学会に参加させて頂き、おそらく旅行では行かない都市に行き、合間の時間に観光し、その土地の雰囲気味わうことが出来た。これは私の普段の生活からすれば、竜宮城に行ったかのような非日常体験であった。特に印象的だったのは、3日目の夜にロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団のクラシックコンサートに行ったことである（この日のコンサートは英国病理学会がスポンサーに入っており、学会参加者は無料で行くことが出来た。このようなところにお金が使われているのもイギリスらしい）。子供が生まれてから久しくコンサートなど行っていなかった自分にとっては、非日常体験を締めくくりに相応しい印象深いものであった（ちなみに休憩時間中には会場の出入口付近でアイスクリームが販売されており、ホールの座席で皆がアイスクリームを食べているのも新鮮な光景だった）。

5. 最後に

このような貴重な機会を与えて下さり派遣に尽力して下



上はジョン・レノンが幼少期によく遊んでいたとされる Strawberry Field, 下は Penny Lane。この2つがタイトルに入った両A面シングル（50年以上前）はビートルズの代表作の1つである。この機会を逃すと一生見られないことは明白だったので、ビートルズの観光バスツアーに乗った。他にビートルズにまつわる有名な地名には Abbey Road があるが、あれはロンドンにある。

さった日本と英国の病理学会の皆様へ感謝致します。

帰国してスーツケースを開けると煙がモクモクと出て来て、顕微鏡で病理診断をする時代は終わっていた、ということではなかったが、不在の間に病院の病理検体の番号はずいぶん進んでいたし、出発前に切った子供の爪もかなり伸びていた。非日常体験を送るにあたり、職場を支えてくれた同僚、及び子供2人の面倒を1人で見てくれた妻にもお礼を言いたい。

3) ジュニア研究者 紅林 泰先生（慶應義塾大学） 英国病理学会派遣報告書

慶應義塾大学医学部病理学教室

紅林 泰

この度、日本病理学会の日英交流事業の一環として、英国リバプールにて行われました英国病理学会（Liverpool Pathology 2023；14th Joint Meeting of the British Division of the International Academy of Pathology and the Pathological Society of Great Britain and Ireland）に、大阪大学の田原紳一郎先生とともに参加させていただきました。

英国病理学会は例年、ヨーロッパ病理学会と比較すると小さめの規模で行われているようで、今回もリバプール大

学の中心部にある建物の一角で行われました。演者の多くはマイクを使わず発表し、発表が終わると参加者は席に座ったまま次々に質問し、フランクな雰囲気活発に議論が行われていました。私は初日の午後に「Classification of Immune and Immunovascular Tumor Microenvironment of Hepatocellular Carcinoma through Detailed Histopathological Analysis」という演題で、これまで研究してきた肝細胞癌の免疫・血管微小環境の病理学的検討に関する発表をさせていただきました。英語での質疑応答はいまだ慣れない私ですが、日本人だからと遠慮することなくフロアからの確かな質問、コメントを頂くことができました。学会全体を通して、主なセッションは消化管病理と腎泌尿器病理に限られていましたが、これらの分野における著名な病理学者の講演を聞くことができ、英国病理学の伝統を窺い知ることができたように思います。米国の学会では、ビッグデータを提示して量で他を圧倒するような発表が多いように感じますが、今回参加した英国の学会では、取ってきたデータの中から必要なものを吟味して minimum dataset を持ち出して説明しようとする姿勢が感じられ、印象に残りました。

学会はコロナ前の状態に完全に復帰しており、マスク無しは当然のこと、立食あり、アルコールありで大変賑やかでした。会期中の夕方から夜にかけては、Conference Dinner が行われたほか、リーズ大学の Heike Grabsh 教授とその研究室メンバーと Pub で飲み、英国の病理学事情について伺うことができました。英国から日本に若手病理医が派遣される際にも、適宜、気の利いたおもてなしができたらと思いました。英国を訪れるのは今回が初めてでしたが、学会の空き時間にはリバプールを散策することができました。リバプールと言えばジョンレノンとストロベリーフィールド・フォーエバー、ということで、ストロベリーフィールドにも足を延ばしてみました。

最後に、今回の貴重な機会を与えてくださりました、日英両国の病理学会に御礼申し上げます。特に、今回の派遣に際し大変お世話になりました、日本病理学会国際交流委員会委員長の都築豊徳先生ならびに病理学会事務局の皆様へ深謝いたします。



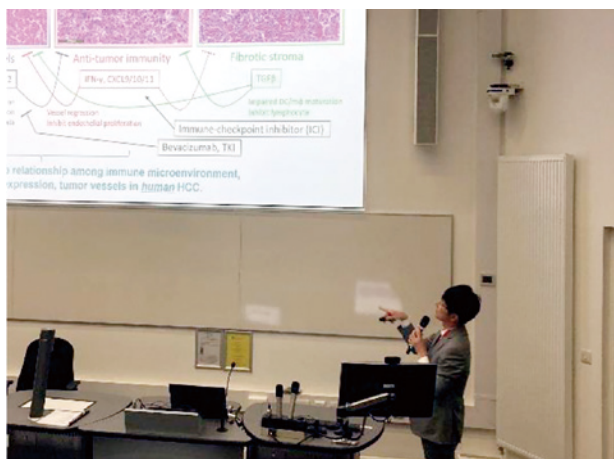
リバプール大学の様子。広い敷地内に、古い歴史のある建物と、新しい近代的な建物が混在している。



英国病理学会 President の Mark Arends 教授と。左から都築先生、Arends 先生、筆者、田原先生。



消化器病理のセッションでの講演の様子。



発表する筆者。

3. 第46回（令和5／2023年）日本病理学会認定施設および登録施設の認定申請について

A：日本病理学会「認定施設」の認定申請（新規）について

第46回（令和5／2023年）の認定審査のための申請を下記の通り受け付けます。申請ご希望の施設は、書類を以下よりダウンロードの上、申請してください。申請には前年

の剖検例が剖検輯報に đăng載されていることが必須条件です。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/20230815senmoni.html>

1) 申請に必要な書類 上記 HP よりダウンロードしてください

- ① 日本病理学会認定施設認定申請書 1通
- ② 認定施設認定申請書資料 1通

2) 申請書類提出先（郵送のみの受付）

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-17
神田INビル6階

日本病理学会事務局 認定施設申請受付係

TEL 03-6206-9070

3) 申請締切：2023年10月31日（火）消印有効

4) 認定施設の主な条件

常勤の病理専門医研修指導医が最低1名いること。

8体程度／年の剖検があること。

NCDを通じて剖検データを登録していること。

※認定施設審査細則63ページ

<https://www.pathology.or.jp/jigyoku/kitei.html>

※申請をする施設は、2022年（1月～12月）の剖検データを、その施設として登録完了後、施設申請書類を病理学会へ送付してください。（連携している施設とデータを一緒に登録することはできません）

剖検データはNCDにて登録受付中です。登録されていない場合、申請は認定されません。登録開始前にNCDへ担当者を事前登録する必要があります。

詳細はNCDホームページをご確認ください。

<https://www.ncd.or.jp/info/information/4418.html>

B：日本病理学会「登録施設」の認定申請（新規）について

第46回（令和5／2023年）の登録施設確認を行うにあたり、下記により確認申請を受け付けます。申請ご希望の施設は、書類を以下よりダウンロードの上、申請してください。申請には剖検例が剖検輯報に đăng載されていることが必須条件です。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/20230815senmoni.html>

1) 申請に必要な書類 上記 HP よりダウンロードしてください

- ① 日本病理学会登録施設確認申請書 1通
- ② 日本病理学会登録施設被登録承諾書 1通
- ③ 登録施設確認申請書資料 1通

<注意>

①は既に認定施設として認定されている大学の病理学講座・病理部や市中病院の病理部等が記入してください。

②はこれから登録を受けようとする病院が記入してください。

③はこれから登録を受けようとする病院の専任又は非専任の病理医が記入することが望まれます。

※①～③を一緒にの封筒でお送りください

2) 申請書類提出先（郵送のみの受付）

〒 101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-17
神田 IN ビル 6 階
日本病理学会事務局 登録施設申請受付係
TEL 03-6206-9070

3) 申請締切：2023 年 10 月 31 日（火）消印有効

4) 登録施設の主な条件

親施設となる認定施設と協力関係を結ぶ必要がある。

1 体程度／年の剖検があること。

NCD を通じて剖検データを登録していること。

※登録施設審査細則 65 ページ

<https://www.pathology.or.jp/jigyoku/kitei.html>

※申請をする施設は、2022 年（1 月～12 月）の剖検データを、その施設として登録完了後、施設申請書類を病理学会へ送付してください。（連携している施設とデータを一緒に登録することはできません）

剖検データは NCD にて登録受付中です。登録されていない場合、申請は認定されません。登録開始前に NCD へ担当者を事前登録する必要があります。

詳細は NCD ホームページをご確認ください。

<https://www.ncd.or.jp/info/information/4418.html>

2022 年分 剖検データ登録 締切日のご案内

剖検情報は、NCD（National Clinical Database）を利用して登録していただいております。

現在 2022 年（1 月～12 月）のデータ提出を NCD 上にて受付けておりますので、締切までに登録を完了していただきますようお願い申し上げます。

剖検輯報に登録していない症例は、病理専門医受験資格分としてカウントすることが出来ませんので、ご注意ください。

＜2022 年（1 月～12 月）の剖検・施設情報の登録締切日＞

登録締切日：2023 年 12 月 1 日（金）23：59 まで

※締切日以降、2022 年分は一切登録できませんので、ご注意ください。

詳細は NCD ホームページをご確認ください。

<https://www.ncd.or.jp/info/information/4418.html>

剖検データは他施設とまとめて登録することはできません。NCD を通じて、施設ごとに登録してください。